

2026年度(令和8年度)

事業計画書

自 2026年4月 1 日
至 2027年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

[2026年度(令和8年度)事業方針]

今年度も「Japan Rowing Vision 2020」を基本方針とし、引き続き強化と普及の両輪を回し精力的に活動していく所存である。特に新たな強化体制のもと、オリンピック・パラリンピック2028年ロサンゼルス大会および2032年ブリスベン大会までを見据え策定した強化戦略計画スタートの年と位置付け、目標達成に向け着実な邁進に努めたい。一方で、財務基盤の立て直しも引き続き最重要課題と位置づけ、黒字を継続しながら早期の累積赤字の一掃を目指し、健全な財務状況の下で活動していきたい。

1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

国内で楽しく安全なローイングの機会を提供することにより、ローイングファンの増大を図る仕組みづくりを継続する。また、パラローイングに加え、ロサンゼルス大会から正式種目に採用されるコースタルローイングについても強化を含めた振興のため、各都道府県協会ならびに全国ボート場所在市町村協議会との連携を強め、各地域における普及活動の支援に努める。また、IOCやワールドローイングが主導するeスポーツの世界的な潮流、および国のスポーツ基本計画に基づくスポーツDX推進の流れに呼応し、インドア・バーチャルローイングの競技環境を拡充・発展させる。

2.「ローイング選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

2024年パリ大会後の総括および「国際競技力向上に向けた強化戦略計画」を踏まえ、「選択と集中」による実効性の高い強化活動を推進する。特に9月長良川で開催されるアジア競技大会に関しては、実施種目に応じた強化も進め参加全種目でメダル獲得を目標に臨む所存である。

また、中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、新入生を迎えたJOCエリートアカデミー事業への積極的な参画などタレント発掘育成事業の更なる充実と共に、アスリート育成パスウェイ「ローイング版FTEM」の構築に関しても継続した取り組みを進めていく。

また、主催および後援する大会においては、監督・コーチの公認スポーツ指導者資格の取得を義務付けると共に、選手が生涯にわたってローイングを楽しみ、フィジカルリテラシーを身に付けられるような指導者の育成に取り組んでいく。

3.「ローイングの全日本選手権大会およびこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度は、6月の全日本選手権をはじめとして14大会を本会主催大会として開催する。内2大会を「海の森水上競技場」で開催する予定だが、「する人」、「みる人」、「支える人」にとってより魅力ある大会となるように東京都や指定管理者とも緊密に連携しローイングのファンを増やしていきたい。

4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

強化戦略計画に沿って代表選手選考を行い、シニア・U19・U23世界選手権を中心にワールドカップや World University Championshipsなど各世代の主要な国際大会に選手団を派遣する。

5.「ローイング競技の諸規則・諸規定の制定及びコース・競技用具の審査と検定」に関する事業

競漕規則については、国際ローイング連盟の改定に合わせ必要に応じて見直しを実施する。また、コースの新規・更新認定業務を都道府県協会や地元自治体などと協力して引き続き実施する。

6.「その他の重要な事業」

財政基盤の再建を引き続き遂行するため予算管理の徹底および新たな収入源の確保に努め、既存収入源に関しても随時見直しと改善を行う。また、スポーツ団体ガバナンスコードについても実情的確な把握と改善に取り組み、ガバナンス強化を更に推進する。

[2026年度(令和8年度)事業計画]

1. 競技本部関係事業

(1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

①競漕大会開催について

・今年度は主催大会として、以下の大会を開催する。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月8日(金)～10日(日)	2026年ローイング日本代表候補選手選考大会(U19の部)	埼玉県戸田市 サンクジャパン戸田公園 「漕艇場」
5月9日(土)～10日(日)	第76回全日本社会人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 サンクジャパン戸田公園 「漕艇場」
5月23日(土)～24日(日)	第17回全日本マスターズレガッタ石川県復興特別大会	石川県津幡町 津幡漕艇競技場
6月4日(木)～7日(日)	第104回全日本ローイング選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
7月24日(金)～26日(日)	第46回全日本中学選手権競漕大会	福島県喜多方市 荻野漕艇場
8月10日(月)～13日(木)	第74回全日本高等学校選手権競漕大会	滋賀県大津市 関西みらいローイング センター
8月27日(木)～30日(日)	第53回全日本大学ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 サンクジャパン戸田公園 「漕艇場」
8月27日(木)～30日(日)	第66回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 サンクジャパン戸田公園 「漕艇場」
8月29日(土)～30日(日)	第3回ジャパンオープンレガッタ	埼玉県戸田市 サンクジャパン戸田公園 「漕艇場」
9月10日(木)～13日(日)	第80回国民スポーツ大会ローイング競技	青森県むつ市 大湊特設ローイング場
10月23日(金)～25日(日)	第67回全日本新人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 サンクジャパン戸田公園 「漕艇場」
11月1日(日)	TOKYO2020 開催記念レガッタ2026	東京都江東区 海の森水上競技場
11月14日(土)～15日(日)	第38回全国高等学校選抜ローイング大会 JOCジュニアオリンピックカップ大会	静岡県浜松市 天竜ボート場
2027年 3月(計画)	ローイング日本代表候補選手選考大会(SBS)	

※全日本ローイング選手権大会は軽量級種目を含めて開催する。

※第53回全日本大学ローイング選手権大会および第66回オックスフォード盾レガッタは8月26日から30日までの5日間とする場合がある。

※日本代表候補選手選考大会(SBS)の全日本タイトル化に向けた検討を行う。

②インドアローイングについて

- ・A大会（全国9ブロック）およびB大会を開催する。

③競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2026年度の競技団体および競技者の資格決定を行う。
- ・2026年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握する。

（2）コース認定に関する事業

2026年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについてコース認定を実施する。

- ・2026年度認定期間満了を迎えるコース

都道府県	コース名	級	レーン	距離（m）
滋賀県	琵琶湖漕艇場	C	4	1,000
愛知県	愛知池漕艇場東郷コース	B	6	1,000
大阪府	大阪浜寺コース	B	6	1,000
長野県	下諏訪町漕艇場	B	6	1,500
栃木県	谷中湖ボートコース	B	6	1,000
大阪府	大阪浜寺コース	C	6	2,000
岩手県	岩手県花巻市田瀬湖ボートコース	B	8	2,000
島根県	島根県さくらおろち湖 ボート競技コース	B	6	1,000
石川県	津幡漕艇競技場	B	6	1,000
東京都	海の森水上競技場	A	8	2,000
愛媛県	玉川湖ボートコース	B	6	1,000
静岡県	天竜市営ボート場2000mコース	B	6	2,000

- ・2026年度新規認定見込み水域

宮崎県、小野湖 ※2028年度国民スポーツ大会開催予定地（B級、1,000m）

（3）競漕艇の計測に関する事業

第80回国民スポーツ大会ローイング競技、第74回全日本高等学校選手権競漕大会および第38回全国高等学校選抜ローイング大会において競漕艇の計測業務を行う。

（4）海の森水上競技場に係わる事業

- ①レガシー活用の観点から、今年度は同会場において「第104回全日本ローイング選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」（※普及委員会主管）を開催する。
- ②海の森総合型地域スポーツクラブとも連携し施設整備および運用システム構築を関係先と連携し確立する。

（5）審判に関する事業

①審判業務

- ・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行う。
- ・強化委員会による日本代表選考レースに審判を派遣し審判業務を行う。

②審判員養成事業

- ・国スポ及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成のため、C級審判を現在の1,672名から1,800名に底上げを図る。
- ・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行う。

研修会名称	開催時期	開催場所
第96回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	5月	埼玉県・戸田
第97回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田
オンライン研修会	2027年2～3月	オンライン

③国際大会への審判派遣…今年度は以下の国際大会に審判員を派遣する。

[World Rowing大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
World Rowing Under 19 Championships	Plovdiv, BUL	8月5日～9日	成田 泰久	東京
World Rowing Championships	Amsterdam, NED	8月23日～30日	栗山 俊久	東京
World Rowing Masters Regatta	Bled, SLO	9月9日～13日	隈元 幸治	神奈川
World Rowing Coastal Championships (Spare)	Qingdao, CHN	10月9日～11日	薬師寺 朋美	東京

[ARF大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
2026 Asian Rowing Cup I	Chungju, KOR	4月24日～26日	未決定	
2026 Asian rowing Indoor championships	Ninh, VIE	5月28日～30日	未決定	
2026 Asian Rowing Beach Sprint Championships	Pattaya, THA	6月4日～7日	未決定	
20 th Asian Games, Aichi-Nagoya 2026	Aichi, JPN	9月20～24日	成田 泰久 薬師寺 朋美 吉野泰宏(スペア)	東京 東京 東京
2026 Asian Rowing U19 Championships	Maharashtra, IND	12月4日～6日	未決定	

(6) 国際大会に関する事業

第20回アジア競技大会の準備を組織委員会と連携して実施する。

2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

① 基本方針

2024 年パリ大会後の総括および「国際競技力向上に向けた強化戦略計画」を踏まえ、現在の国際競技力や資源、課題を分析した上で、「選択と集中」による実効性の高い強化活動を推進する。2028 年ロサンゼルス大会に向けては、これまで 9 年間取り組んできた強化メソッドを継承しつつ、必要な改善を加えながらナショナルチームの強化体制を再構築する。ジュニアからシニアトップ選手まで継続的に成長できるフィジカル、テクニク、メンタルの強化を深化させ、世界レベルに挑戦できる選手の育成を目指す。

また、重点強化種目を男女シングルスカルと設定し、限られた資源を集中的に投入する一方で、派遣種目制度を整備し、国際大会への継続的な挑戦と経験値の蓄積を図る。これにより、2028 年大会での成果創出とともに 2032 年ブリスベン大会を見据えたオープンカテゴリーの強化基盤を構築する。

さらに、2028 年大会よりオリンピック正式種目となるコースタルローイングについても関係委員会と連携し、将来的なメダル獲得に向けた強化体制の整備を進める。

加えて、選手所属団体との連携強化、次世代指導者育成、アスリート育成パスウェイの再構築を推進し、日本ローイング界全体の国際競技力向上を目指す。

② 具体的活動計画

1) 強化メソッドの継続と高度化

- ・これまで構築してきたナショナルチームの強化メソッドを継続し、国内チームとの共有と浸透を図る。
- ・世界と戦えるフィジカル基準（例：エルゴメーター%IDT95%水準）を明確化し、選考基準の一部に反映する。
- ・シニア、U23、ジュニア各世代において基準を満たす選手母集団の拡充を図る。

2) 重点強化種目を中心とした強化体制の構築

- ・重点強化種目を男女シングルスカルとし、強化資源を集中的に投入する。
- ・日本代表候補選手選考大会（SBS）を毎年実施し、重点強化種目および派遣種目の選考を行う。
- ・個人能力の評価を重視した選考システムを構築し、競争力の高いクルー編成を目指す。

3) 代表チーム区分による強化活動の推進

- ・ナショナルチームを A 代表、B 代表、C 代表に区分し、それぞれの強化目的に応じた活動を実施する。

A 代表

- ・重点強化種目を中心にオリンピック、世界選手権、ワールドカップ等における国際競争力向上を目指す。

B 代表

- ・世界選手権およびアジア競技大会等の派遣種目を中心に競技力向上を図る。

C 代表

- ・アジア選手権や国際レガッタ等を通じて若手選手の育成および国際経験の蓄積を図る。

4) オープンカテゴリー強化基盤の整備

- ・2028 年大会を見据え、オープンカテゴリーにおける強化体制を構築する。
- ・2026 年アジア競技大会を重要なマイルストーンと位置づけ、国内外の競技力向上を促進する。
- ・世界レベルの大会への派遣を通じて国際経験を蓄積する。

5) コースタルローイング

- ・2028 年大会より正式種目となるコースタル競技について、関係委員会と連携し強化体制の構築を進める。
- ・CMPA 制度を活用し 2032 年ブリスベン大会におけるメダル獲得を見据えた基盤整備を行う。

6) 所属団体との連携強化

- ・所属団体とのミーティングを実施し、トレーニング内容やコンディション情報の共有を行う。
- ・サポートコーチ制度、派遣種目での指導者派遣を整備し、所属団体コーチの合宿・海外遠征帯同を推進する。
- ・ナショナルチームと所属団体が一体となった強化体制の構築を図る。

7) 協会内組織連携

- ・協会内関係委員会との横断的連携を図り、強化活動における支援体制の充実を図る。

8) タレント発掘・育成および育成パスウェイの構築

- ・J-STAR プロジェクト等を通じたタレント発掘を継続するなか、競技転向型タレント発掘事業について事業再構築を実施する。
- ・U19、U23、シニアの各カテゴリーにおいて一貫した育成体制を構築する。
- ・日本版 FTEM を活用し「ローイング版アスリート育成パスウェイ」の確立と普及を目指す。

9) PDCA サイクルによる強化活動の改善

- ・毎年の目標設定と成果評価を実施し、強化活動の改善を図る。
- ・選手、コーチ、強化マネジメントが一体となり、計画的かつ持続的な競技力向上を推進する。
- ・強化活動および選手成長の可視化を進める。

③強化合宿及び大会派遣計画について

【シニア】

事業	場所	期間
4月強化合宿	海の森水上競技場他	4月6日（月）～19日（日）
5-6月欧州遠征	フランス・エギュベレット	5月23日（土）～6月30日（火）
<u>ワールドカップ</u>	<u>(WC1) セビリア・スペイン</u>	5月29日（金）～31日（日）
	<u>スイス・ルツェルン</u>	6月26日（金）～6月28日（日）
7月強化合宿	未定	7月13日（金）～7月29日（水）
世界選手権事前合宿	未定	8月3日（月）～22日（土）
世界ローイング 選手権	アムステルダム・オランダ	8月23日（日）～30日（日）
9月強化合宿	海の森水上競技場	9月7日（月）～9月16日（水）
アジア競技大会	長良川・岐阜県	9月20日（日）～9月25日（金）

【U23】

事業	場所	期間
4月強化合宿	未定	未定
5月強化合宿	サントクジャパン戸田公園	5月1日（金）～10日（日）
6月強化合宿	未定	6月15日（月）～6月28日（日）
7月強化合宿	未定	7月6日（月）～7月21日（火）
U23 世界ローイング 選手権	デュイスブルグ・ ドイツ	7月22日（水）～7月26日（日）
8月強化合宿	未定	8月3日（月）～8月12日（水）
World University Championships	ロンドン・カナダ	8月13日（木）～15日（土）

【U19】

事業	場所	期間
日本代表候補選手 選考大会（SBS）U19）	サントクジャパン戸田公園	5月8日（金）～5月10日（日）
5月強化合宿	未定	5月10日（日）～5月15日（金）
6月強化合宿	未定	6月8日（月）～6月12日（金）
6月-7月強化合宿	未定	6月27日（土）～7月3日（金）
7月強化合宿	未定	7月21日（火）～8月4日（火）
U19 世界選手権	プロブディフ・ブルガリア	8月5日（水）～8月9日（日）
アジアジュニア選手権	未定	

事前合宿		未定
アジアジュニア選手権	インド・ブネ	12月4日（金）～12月6日（日）

（注）強化合宿及び大会派遣計画については、各種助成金の採択結果および本会の財政状況によって変更する可能性がある。

（２）タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

①基本方針

１）海外育成拠点モデル事業

- ・ポテンシャルアスリートの育成に向け、有望なタレント育成選手の海外レース・合宿への派遣を積極的に行い、経験値向上を目指す。

２）国内育成モデル事業

- ・タレント育成選手の国内合宿をおこない幅広い強化を図る。

３）発掘育成拠点化事業

- ・ローイング選手の発掘・育成に向け国内拠点の整備と普遍的なシステム構築に向け全国各地における拠点化の整備を行う。

４）発掘モデル再構築事業

- ・アスリート育成パスウェイに沿ってトライアウト1次選考・2次選考を実施する。
- ・特に種目最適型タレント発掘事業について再構築を行う。

５）JOCエリートアカデミー事業の継続

- ・アスリート育成パスウェイの重要な事業の一つとして活用し、修了生のフォローも継続して行う。

②具体的活動計画

１）タレント発掘海外遠征計画

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
5月	欧州遠征	スペイン・セビリャ	MPA・PA
1～2月	海外合宿	調整中	MPA・PA

２）MPA（U23・U21）強化育成合宿

実施月	実施事業	実施場所	対象選手
4月	MPA育成合宿	未定	U23・U21
6月	MPA育成合宿	未定	U23・U21
7月	MPA育成合宿	未定	U23・U1
11月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
2月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

3) JOCエリートアカデミー (EA) 事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
5月～11月	EA強化合宿	未定	EA生
12-2月	EA20期生育成合宿	埼玉県・戸田	EA候補生

4) 有望選手発掘事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
1月	有望選手発掘育成合宿	未定	有望選手候補
2月	有望選手発掘育成合宿	未定	有望選手
3月	有望選手発掘育成事業	埼玉県・戸田	有望選手

5) タレント育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
5月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
6月	タレント育成合宿	未定	タレント
7月	タレント育成合宿	未定	タレント
8月	タレント育成合宿	未定	タレント
11月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント

(3) 医科学に関する事業

医療従事者の確保し、円滑な大会医事業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングに継続して貢献する。また、トレーナー部会を通じコンディショニングに関する啓発を行う。競技における各種の調査と分析を行い、競技発展のため提言を行う。

① メディカルサポートに関する事業

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権、TOKYO2020開催記念レガッタ、日本代表候補選手選考大会（SBS））に医師ならびに看護師、理学療法士を派遣し、大会医事業務を行う。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行う。
- ・特にトレーナー部会においては、コンディショニングに関する知識を普及するため、指導者と選手を対象に随時講習会を開催し、またホームページを利用した広報活動を行う。

② ローイングにおける熱中症等への対策事業

- ・近年の気候変動により著しく気温が高くなっており、大会開催の大きなリスクとなっている。熱中症等の体調不調者に関する研究を進め、対策を講じる。

③ 日本代表強化に関する事業

- ・強化委員会に協力し、代表選手強化に関する医学的サポートを行う。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に広げ、アンチ・ドーピングに関する教育及び啓蒙の強化を図る。

①ドーピング検査受入

- ・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに合わせてサポート業務を行う。

②ドーピング防止啓発活動

- ・研修講師向け「クリーンスポーツエデュケーター資格」取得のための講習会を今年度より新たに実施する。
- ・強化指定選手（パラローイングを含む）を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・U19およびU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・各地域大会（朝日レガッタや国スポ地区予選など）においてアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・アウトリーチ活動を全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に実施する。

（５）指導者育成に関する事業

日本スポーツ協会と共に、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできる公認スポーツ指導者を増やし、その質を高め、活躍の機会を広げることで誰もがスポーツに親しむことのできる社会の実現に貢献する。

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（ローイングコーチ）養成事業

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる公認指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認スタートコーチ、コーチ１、コーチ３養成講習会について以下の日程で講習会を開催する。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ3養成講習会	前期：10月10日～12日 後期：11月21日～23日	埼玉県戸田市
公認コーチ1養成講習会	前期座学8月22日～23日 後期座学：9月26日～27日 実技①：10月17日～18日 実技②：11月28日～29日	座学：オンライン 実技①：新潟県新潟市 実技②：東京都江東区
公認スタートコーチ	各都道府県協会等の希望により調整し、随時実施。 各20名以上で催行	関東エリア、関西エリア他開催を予定
資格更新義務研修 および コーチカンファレンス	朝日レガッタ他	瀬田漕艇倶楽部等
	高体連主催研修	高体連
	都道府県ボート協会主催研修など	オンライン、リアル開催

- ② コーチカンファレンスおよび更新研修の実施について強化委員会と連携し、ヘッドコーチ等を講師として招聘し、オリンピックやパラリンピックをはじめとする国際大会での競技力向上を目指し、指導者の資質向上を図る。各委員会ならびに都道府県協会、地域クラブ等と協調し、体系的かつ効果的なコーチカンファレンスおよび更新研修を開催する。

③ 強化委員会との連携（テクニカル部会）について

公認コーチ4やメディカル資格取得者、養成講座の講師、ナショナルチームコーチなどを中心としたデベロップメントの場を設け、コーチミーティングおよびコーチカンファレンスなどの講師として活躍できるよう構築する。

④ 次世代コーチ育成について

ナショナルチームの活動を通じて、トップアスリートのフィジカルリテラシー向上と将来のコーチ育成を目指し、強化委員会をはじめ各委員会が連携し、ナショナルチーム向け研修会やサポート事業等を開催する。また、学び意識の高いアスリートや若手ナショナルチーム経験者へのJSP O公認コーチ取得に向けたサポートやナショナルチームのコーチインターンシップを実施する。

（6）アスリートに関する事業

以下事業を着実に実行し、アスリートの視点に立った提言及び関係事業へ参画する。

① トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行う。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行う。

② 本会主催諸事業に協力しローイング競技の普及と発展に貢献

- ・ローイング競技ならびにアスリートの地位向上のため、広報活動や講演活動に積極的に参画する。
- ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画する。
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を安全環境委員会と協働して企画し、大会開催時等を実施する。

③ トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にローイング競技や協会の活動に携われるようサポートを行う。

3. 普及本部関係事業

（1）普及に関する事業

① 既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ローイング（ボート）協会および全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域のローイング普及環境の整備の一助とする。

② ジュニア層のローイング人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生のローイング競技振興を図るため、全国中学校ローイング連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を継続して行う。
- ・特に中学生のローイング人口拡大に向けたアプローチを重点的に実施する。

③ TOKYO2020開催記念レガッタの開催

- ・普及およびレガシー活用を目的として、海の森水上競技場で11月に開催する。

④ 全国ボート場所在市町村協議会との協力関係推進

- ・協議会主催会議並びに行事に積極的に参加し、協議会との関係強化を図る。

⑤ オリンピアン・パラリンピアンに関する活動

- ・JSC助成事業として、ローイング競技普及を目的に「エルゴチャレンジ」を海の森水上競技場他で開催する。

⑥ バーチャルインドアローイング大会の実施

- ・幅広くローイングに触れてもらう機会創出を目的に2月に開催する。

(2) 広報に関する事業

ローイング機会拡大とローイング人口拡大に向け、広範に適時適切な情報発信を行う。

① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・本会機関紙「ROWING」を6回発行する。同時に内容の刷新と編集経費の見直しを図る。

② 本会ホームページの改善とSNSの活用

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図る。
- ・より見やすく、検索しやすく、発信しやすいとの観点から改善に向けグランドデザインを検討・刷新する。
- ・Facebookの活用に加え、その他SNSメディアの活用を検討、実施する。

③ 報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及およびスポンサー獲得のため、メディア露出を目的とした情報配信をより積極的に行う。
- ・東京運動記者クラブはじめ各報道機関ならびに出版業界との関係を密にし、協会体制およびコースタルローイング等のタイムリーな情報発信に努め、報道を通じて本会の活動の広報に取り組む。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを継続して行う。

① 主催大会における救助業務

- ・本会の主な主催大会（日本代表候補選手選考大会（SBS）、全日本社会人選手権、全日本選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）において施設委員会、審判委員会、医科学委員会、関東漕艇学生連盟と連携し救助業務を行う。
- ・講習会等も企画し連携力強化を含めたスキルアップにも取り組む。

② セーフティアドバイザー講習の実施

- ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図る。
- ・講習会の実施

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー講習	1月	埼玉県・戸田市 & オンライン

③ 各地での安全活動支援とローイング水域の環境整備

- ・インシデントレポート掲示板に集まった事例展開等を通じ、各地での安全活動に対する意識向上を図る。
- ・2024年度に改定した「安全マニュアル」の販売促進を通じ各地の安全活動支援につなげる。
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を企画・サポートする。

④ 環境保全の意識付け推進

- ・昨年実施したクリーンウォータープロジェクトの流れを今後につなげるための各種活動を工夫し検討していく。

(4) コースタルローイングに関する事業

強化戦略計画の重点強化種目男女ソロにおいて、2028年のロス、その後の2032年のブリスベンまで見据え、コースタル種目の特徴に適応する強化プランを推進していく。

① コースタル・メダル・ポテンシャル・アスリート（CMPA）強化事業

- ・CMPA認定選手（指名ユニットのコーチ、ハンドラー含む）の国内強化合宿、海外強化合宿、国際大会派遣を強化委員会とともに実施していく。
- ・国際的指導者育成プログラムを指導者育成委員会とともに推進していく。
- ・国際的情報分析活動（国内外視察含む）を実施する。
- ・国内における強化拠点整備を推進する。

② U19タレント発掘事業

- ・U19代表選手の国内強化合宿、国際大会派遣ならびにユース五輪セネガル派遣を高体連、強化委員会とともに実施していく。

③ ビーチスプリント種目における全日本選手権大会新設の検討

コースタルローイングが正式採用されるロス五輪の開催年2028年度の大会新設を目指した検討を競技委員会とともに推進する。

4. パラローイング本部関係事業

(1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。
- ・2026世界ローイング選手権にてA決勝以上の成績を目指す。

(2) 基本計画

- ・国際競争力を強化し世界選手権でのA決勝以上の成績を目指す。
- ・競技ができる施設・機材の整備 並びに体験できる機会の創出を推進し競技の普及を図る。
- ・J-STAR 等による選手発掘に努め、指定選手数を拡大する。
- ・コーチ、スタッフの増員により、サポートを拡充する。

(3) 具体的活動

① 国内合宿

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	4月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	秋田県・大潟村	強化指定/育成選手
8月	世界選手権直前合宿	東京都・海の森水上競技場	世界選手権参加クルー
9月	9月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手

②国際大会派遣

以下の国際大会に選手団を派遣する。

派遣期間	大会名	開催地
6月	ワールドカップ III	スイス・ルツェルン
9月	2026世界ローイング選手権	オランダ・アムステルダム

③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖漕艇場等において乗艇体験会を実施する。

5. 企画管理本部関係事業及び独立委員会事業

(1) 国際関係事業

① World Rowing および ARF 総会への代表者派遣

- ・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣する。

会議名	会議日程	開催国・会場地
国際ローイング連盟(WR)通常総会	未定	未定
アジアローイング連盟(ARF)総会	未定	未定

② 国際交流事業

- ・東京五輪及びレガシー施策を通して構築した World Rowing や海外協会との関係性を深化、連携強化をはかり、国内ニーズにマッチした新たな国際交流事業を立案/構築する。

③ 国際人材養成事業

- ・JOC が主催する国際人養成アカデミーに人材を派遣し、日本ローイングコミュニティから、継続的に国際連盟ポストを狙える人材の養成を再開する。

④ 国際大会開催支援

- ・2026年愛知名古屋アジア競技大会の開催に向け、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会及び地元中部ボート連盟、愛知県ボート協会と連動し、開催に関する支援を実施する。

(2) 財政基盤強化に関する事業

① 助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田ボートレース事業者ならびにその他団体に対し本会の諸事業の重要性についての理解を求め、継続的な支援をお願いする。

② 事業収入の見直しについて

- ・その他の収入に関しても引続き見直しを検討して財政基盤の強化につなげる。

③ マーケティング戦略の構築

- ・引き続きJOC/NFジョイントマーケティングに参加し、スポンサーと協賛金の獲得に努める。
- ・新ビジョンに基づき本会の事業価値を抜本的に見直し、マーケティング戦略の構築を目指すとともに、中期的な財務立て直し計画に貢献する。

④ 情報プラットフォームの活用

- ・スポーツ庁の助成を得て構築した情報プラットフォームを活用し、「みる人」「する人」「支える人」を一元管理し、ローイングの価値向上を図る。

（３）ガバナンス強化に関する事業

前回の加盟上部団体（JSP0、JOC、JPSA）による本会のガバナンスコードの適合性審査では、要改善事項の該当はなしとの結果であったが、より一層の体制強化を継続する。

①公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として本会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施する。

②コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場ならびに本会役職員に対するコンプライアンスおよびインテグリティ教育に関し、JOC等主催の研修会や講習会への参加による啓蒙活動を継続するとともに、本会内においても独自に研修の機会を設けて意識の徹底を図る。
- ・本会の「協会弁護士による研修会」制度を所属団体等に働きかけ継続する。

（４）企画戦略に関する事業

- ・新組織体制の定着とビジョン実現に向けた戦略統括

中長期計画をとりまとめ、各委員会の横断的連携を強化。また、ビジョンに基づき、収益基盤の確立を含む事業戦略を策定・推進する。

- ・スポーツ・インテグリティ、ガバナンス推進

NF としてのガバナンスコード遵守を徹底し、透明性の高い迅速な意思決定を行う。コンプライアンス周知を通じ、健全な協会運営・競技環境を構築する。

- ・東京 2020 レガシーの継承と「海の森」の戦略的活用

東京 2020 大会のレガシー継承・発展にむけ、東京都等の関係機関との連携を強化する。また、「海の森水上競技場」のポテンシャルを最大限に引き出すための戦略的活用計画を検討する。

- ・国際機関など外部機関との戦略的連携とバーチャルローイングの実装

WR、ARF、IOC、ASOIF、スポーツ庁、JSC、東京都等との連携を深化。

スポーツ庁、JSC、IF、東京都と緊密に連携してバーチャルローイング（コネクテッド・ローイング）の研究・活動を推進し、国内外での普及に寄与する。

- ・2026 アジア競技大会および 2027WMG の成功と完遂

開催国として、ARF や組織委員会と緊密に連携し大会運営を完遂。アジアおよび世界における日本のローイングのプレゼンスを最大化させる。

- ・ダイバーシティ&インクルージョンの推進と社会的責任の遂行

組織運営における多様な視点の導入を促進し、ローイングが持つ価値を多角的に活用して社会課題の解決（SDGs 等）に貢献し、本会の社会的プレゼンスと信頼性を向上させる。

以上